

草

インポッシブル・ギャグ Impossible Gags

草



作 松原俊太郎

出演 荒木知佳
矢野昌幸
米川幸リオン

2023
日時 3月11日(土)
●14時～●18時～

12日(日)
●14時～
※開場は開演20分前

場所 京都芸術劇場
春秋座ロビー
(京都芸術大学内)

草『インポッシブル・ギャグ』Impossible Gags

2023年 3月11日(土) 14時/18時 3月12日(日) 14時 ※開場は開演20分前

純粋劇作家・松原俊太郎がその純粋さをかなぐり捨てて、
3人の猛者たち(荒木知佳・矢野昌幸・米川幸リオン)と臨む、最初で最後の舞台、お楽しみ!

つまらないから叩く。気に入らないから批判する。目障りだから消す。こうした行いは、ギャグを生みません。距離をとって繰り出されるギャグは冷笑や皮肉と呼ばれ、いま人気がありません。市場が世界を席卷したいま、自分を棚上げできるような場所は地球上には存在しないとされています。つまりは波の中で踊れと。では、いまギャグはどこから生まれるのでしょうか。愛することからです。笑わないで、愛することです。バスター・キートンは機械の運動を、チャールズ・チャップリンは人間の運動を、ジャック・タチは生活を愛することで輝かしいギャグに変えてきました。少なからずの時間いっしょに生きてみないと違いがわからないカップルのように、目の前にあるものと目の前にあるはずのないものがいっしょに生きてみてはじめてギャグは生まれます。

つまり、「インポッシブル・ギャグ」(©バスター・キートン)は波の中で踊りまくる、ありそうもない愛から、生まれてくるのです。

ここで3人以上の人物たちが現れます。3人以上の人物たちは、公衆の面前で、全身を駆使して「インポッシブル・ギャグ」を試みます。しかしながら、その背景には数々の困難が横たわっています。時代閉塞の現状でしょうか。頑なな物理法則でしょうか。愛は嘲笑され、文脈は共有されず、ギャグはダダ滑り、体ごとゴミ箱に入れられ、あとかたもなく燃やされる、かもしれません。それでも人物たちはなにがしか発話しようとしみます。さすれば、ありそうもない何か、発生するはずです。どうかお確かめにいらしてください。

松原俊太郎

場所 京都芸術劇場 春秋座ロビー(京都芸術大学内)

作 松原俊太郎

出演 荒木知佳、矢野昌幸、米川幸リオン

チケット(自由席)

前売 一般 2000円 京都芸術劇場友の会 1800円 学生&ユース 1500円

当日 各+500円 ※ユースは25歳以下 ※学生・ユースは要証明書提示

チケット発売日 2月8日(水) 10:00~

● チケット取り扱い

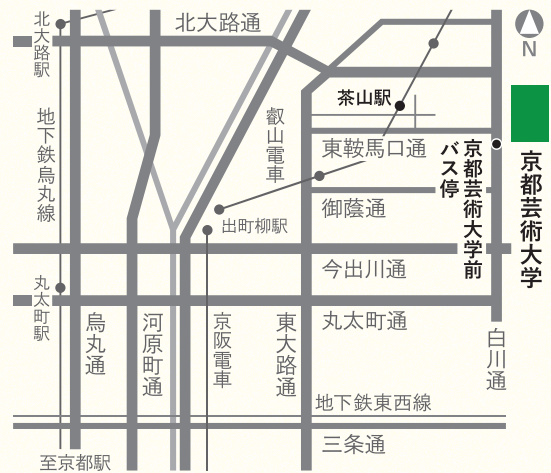
京都芸術劇場チケットセンター 窓口販売・電話予約 TEL: 075-791-8240(平日10時~17時)
劇場オンラインチケットストア ※要事前登録(無料) URL: <https://k-pac.org/>
車椅子ご利用のお客様、足の不自由なお客様は、お電話にてお申込みください。

● 主催・お問合せ

京都芸術大学 舞台芸術研究センター
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116 TEL 075-791-9437

手洗い消毒、マスク着用など、感染対策へのご協力をお願いいたします。当劇場の感染症対策↑

主催 京都芸術大学舞台芸術研究センター 助成 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)



叡山電車「茶山駅」下車 徒歩約10分
京都市バス204・5・3系統「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車
※ 駐車場はございませんので、お車・バイクでのご来場はお断りします

京都芸術劇場 文化庁 公益財団法人セゾン文化財団 独立行政法人日本芸術文化振興会 公益財団法人セゾン文化財団

「草」について

劇作家と出演者が協働で上演を作っていく場として2022年、松原俊太郎を起点に立ち上げ。いつでもどこでも上演できるよう動いていく予定です。お声かけお待ちしております。

松原俊太郎(まつばら・しゅんたろう)

劇作家。1988年、熊本生まれ、京都在住。神戸大学経済学部卒。処女戯曲『みちゆき』(2015年)が第15回AAF戯曲賞大賞を受賞。戯曲『山山』(2018年)が第63回岸田國士戯曲賞を受賞。小説『ほんとうのことって』を「群像」(講談社)2020年4月号に寄稿。主な作品として『君の庭』、『光の中のアリス』、『イヌに捧ぐ』など。2022年度セゾン・フェロー!

荒木知佳(あらかき・ちか)

1995年生まれ。北海道滝川市出身。多摩美術大学演劇舞踊デザイン学科卒業。俳優として、彩の国さいたま芸術劇場「導かれるように聞かう」(作:松井周、演出:近藤良平)、スペースノットブランク『ささやかなさ』『光の中のアリス』『再生数』(作:松原俊太郎 演出:小野彩加 中澤陽)、『no plan in duty』(演出:篠田千明)、本日休演『天使の沈黙』MV、映画『春原さんのうた』(監督:杉田協士)等の作品に参加。2021年、KYOTO CHOREOGRAPHY AWARD2020にてベストダンサー賞受賞。同年、マルセイユ国際映画祭(FID)にて俳優賞受賞。

矢野昌幸(やの・まさゆき)

1989年生まれ。神奈川県川崎市出身。法政大学社会学部メディア社会学科卒業。カナリアーズ主宰。山縣太一氏に師事。主な出演作品は、スペースノットブランク『ささやかなさ』『光の中のアリス』(作:松原俊太郎 演出:小野彩加 中澤陽)、PARA『いざ最悪の方へ』(作:サミュエル・ベケット 翻訳:長島確 演出:額田大志)、『no plan in duty』(演出:篠田千明)、カナリアーズ『ガガたち』(作・演出・出演:矢野昌幸)、『市民と創造する演劇『階層』』(作・演出:岡田利規)

米川幸リオン(よねかわ・こうりおん)

1993年生まれ。三重県鈴鹿市出身、京都市在住。京都芸術大学映画学科俳優コースと映画美学学校アクターズコースを卒業。2017年チェルフィッチュ『三月の5日間』リクリエーションに出演で参加し、2019年チェルフィッチュ×金氏徹平『消しゴム山』/『消しゴム森』にも出演で参加、2022年には市民と創造する演劇『階層』(作・演出:岡田利規)に出演と演出補で参加。その他の出演に、小森はるか+瀬尾夏美『二重のまち/交代地のうたを編む』(2021年)、カナリアーズ『ガガたち』(2022年)など。また近年は、映画・演劇などにおいて自身の創作活動も行なっている。